

## 屋島 源平合戦古戦場

屋島の戦いは、ライバル関係にあった武家の平氏と源氏が日本の支配権を巡って戦った源平合戦（1180～1185年）の終盤に行われた重要な合戦です。戦いが始まる前には京都の宮廷を支配していた平氏は、敗北を繰り返し、1185年までに都を源氏に奪われました。平氏は要塞島である屋島に後退して、6歳の安徳天皇（1178－1185年）の行宮を設けていました。平氏は以前の戦いで敗北を喫していたにもかかわらず、敵よりも多くの船と人員を有していました。そして、水軍での攻撃を予想していました。平氏は船隊を屋島の東側にある小さな入り江に隠し、源氏を待ち伏せする計画を立てました。

源氏の大將である源義経（1159－1189年）はそれとは異なる陸路でのアプローチを選択しました。義経は海岸沿いに火を放って、平氏に背後から大軍が襲いかかろうとしていると信じ込ませようとした。平氏は船に逃げ込み、両軍の射手が射ち合いを演じました。伝説に残る那須与一が率いる源氏の射手は敵方を敗走させました。平氏は屋島を放棄し、瀬戸内海を経て本州南端の先にある下関に逃げざるを得ませんでした。その地で平氏は源氏に最終的に敗北し、その後源氏が鎌倉幕府を樹立しました。鎌倉幕府は1192年から1333年まで日本を支配しました。